平成31年度 授業概要

授業科目名	基本援助論・技術Ⅰ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. フィジカルアセスメントの目的・意義を理解できる。 2. 対象を把握するスクリーニング技術として、バイタルサイン測定が習得できる。 3. 呼吸・循環・消化器系のアセスメント技術が習得できる。 4. 運動・感覚器系のアセスメント技術が理解できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. ヘルスアセスメント	講義
2	1)ヘルスアセスメントとは何か バイタルサインとは何か	講義
3	2)体温とは何か 体温に影響を与える因子、またその正常と異常	講義
4	3)呼吸・脈拍とは何か 呼吸・脈拍に影響を与える因子、またその正常と異常	講義
5	4)血圧とは何か 血圧に影響を与える因子、またその正常と異常	講義
6	5)意識とは何か 意識レベルの観察方法	講義
	6)身体計測の意義・目的・方法	講義
7・8・9	7)バイタルサイン測定の実際(体温・脈拍・呼吸・血圧の観察方法)	演習
10	8)系統別フィジカルアセスメント(呼吸器系)	講義
	SpO_2測定、胸郭の動きの触診、正常な呼吸音	演習
11	9)系統別フィジカルアセスメント(循環器系)	講義
	心音、触診(浮腫・チアノーゼの観察方法)	演習
12	10)系統別フィジカルアセスメント(消化器系)	講義
	腹部の視診、腸蠕動音、触診(圧痛点)	演習
13	11)系統別フィジカルアセスメント(筋・骨格系)	講義
	12)系統別フィジカルアセスメント(感覚器・神経系)	演習
	感覚機能評価、反射(対光反射)	
14	系統別フィジカルアセスメントの実際	演習
15	修了試験	筆記試験 技術試験

評価方法	筆記試験、技術試験(バイタルサインの測定)等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:各形態機能学、各病態学、他
備考	

平成31年度 授業概要

授業科目名	基本援助論・技術Ⅱ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 看護活動を展開するために必要なコミュニケーションを理解できる。 2. 看護においての医療安全・リスク管理の基礎を理解できる。 3. すべての看護技術に共通した安全の考え方を理解できる。 4. 看護活動においての報告・連絡・相談について理解できる。 5. すべての看護技術に共通した感染予防の方法について理解できる。		

回数	授業内容	教育方法
1.2	1. コミュニケーション	講義
	1)看護におけるコミュニケーションの意義と目的	
	2)効果的なコミュニケーション	
3	3)看護におけるコミュニケーションの実際	演習
4	2. 感染防止技術	講義
	1)感染防止の基礎知識 標準予防策とは 2)標準予防策	
5	標準予防策の実際	演習
	・衛生学的手洗い ・個人防護用具の着脱	
6	3)感染経路別予防策 4)洗浄・消毒・滅菌	講義
	5)無菌操作 6)感染性廃棄物の取り扱い	
7.8.9.10	無菌操作の実際	演習
	・清潔区域の作成 ・滅菌物の取り出し方	
	・鑷子の取り扱い ・滅菌手袋・滅菌ガウンの着脱	
11	7)カテーテル関連血流感染対策 8)針刺し防止策	
12.13.14	3. 安全確保の基礎知識	講義
	1)誤薬防止 2)チューブの予定外抜去防止	
	3)患者誤認防止 4)転倒転落防止 5)薬剤・放射線曝露の防止	
15	修了試験	筆記試験 技術試験

評価方法	筆記試験、技術試験(衛生学的手洗い、個人防護用具、無菌操作)等にて評価する
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol. 2 臨床看護技術 メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:人間関係技術Ⅰ、行動科学Ⅰ、カウンセリング理論、微生物学、医療安全
備考	

平成31年度　授業概要

授業科目名	基本援助論・技術Ⅲ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次　2学期
科目目標	1.呼吸循環を整えるための基本的な看護技術の方法を理解できる。 2.皮膚創傷・褥創に関連した援助技術を理解できる。 3.救命救急に関連した基本的な看護技術の方法について理解できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 罨法(温罨法・冷罨法)	講義
2	罨法の実際	演習
3	2. 呼吸の観察とその異常　呼吸を整えることの意味	講義
4	1)排痰ケア(体位ドレナージ・呼吸法)	講義・演習
5	2)吸入法・酸素療法と酸素の管理	講義・演習
6	3)人工呼吸療法	講義
7	4) 吸引法 ： 口(鼻)腔吸引、気管内吸引	講義
8・9	5)口腔・鼻腔・気管内吸引の実際	演習
10	3. 創傷管理の基礎知識	講義
	1)創傷とは　創傷処置	講義
	2)褥創予防	
11	3)創傷処置の実際　包帯法	演習
12	4. 救命救急法とは:一次救命処置(BLS)、二次救命処置	講義
13	1)院内急変時の対応	演習
14	2)止血法	講義
15	修了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1　基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる vol. 2　臨床看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:循環形態機能学、循環病態学Ⅰ、基本援助論・技術Ⅰ、基本援助論・技術Ⅱ
備考	教科外活動にて救命救急講習を受講予定。

平成31年度　授業概要

授業科目名	生活援助論・技術Ⅰ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次　1学期
科目目標	1. 人間の健康の質を左右する環境について理解できる。 2. 生活における活動・休息について理解できる。 3. 生活をサポートする看護援助のためのボディメカニクスについて理解できる。 4. 安全・安楽を考慮した環境、活動・休息への看護援助方法・技術を習得できる。		

回数	授業内容	教育方法
1・2	1. 概要、生活とは	講義
	2. 環境とは、療養生活と環境の関係	講義
	療養に適した環境の調整	
3	3. 活動と休息の援助の基本	講義
	1)活動と休息の関係と療養における同一体位による弊害	
	2)動作の経済性(ボディメカニクス)(物理学の応用)	
4～6	4. 病床環境の整え方	演習
	ベッドメイキング	
7	5. 安楽な体位と体位変換の技術	講義
	1)体位の種類とその特徴	
8・9	2)体位変換の技術・・・水平移動、引き上げ、ファウラー位	演習
	仰臥位～側臥位、仰臥位～端坐位～立位	
10・11	3)移動・移送の技術・・・杖・歩行器・車椅子・ストレッチャー	演習
12	6. 休息の援助 (睡眠・覚醒の援助)	講義
13・14	7. 療養環境の整え方	講義・演習
	臥床患者のリネン交換・・・体位変換不可の対象の場合のリネン交換	
	療養環境の調整技術(環境整備)	
15	修了試験	筆記試験 技術試験

評価方法	筆記試験・技術試験(ベッドメイキング)等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1　基礎看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目: 循環形態機能学、運動形態機能学、基本援助論・技術Ⅰ、基本援助論・技術Ⅱ
備考	

平成31年度　授業概要

授業科目名	生活援助論・技術Ⅱ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次　1学期
科目目標	1. 人間にとっての生活行動(食事・排泄)の重要性を理解できる。 2. 生活援助(食事・排泄)が必要な対象を理解し、状況に応じた援助方法を理解できる。 3. 生活援助技術(食事・排泄)を習得できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 食事援助の基礎知識	
	1)食事の意義	講義
2・3・4	2)栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント	講義
	(1)栄養状態のアセスメント　(2)水分・電解質バランスのアセスメント	
	(3)食欲のアセスメント　(4)摂食・嚥下能力のアセスメント	
	(5)摂食行動のアセスメント	
	(6)食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント	
	3)医療施設で提供される食事の種類と形態	
	2. 食事摂取の介助	
5	1)援助の基礎知識	講義
6	2)援助の実際	演習
7	3. 摂食・嚥下訓練	講義
8	4. 自然排尿および自然排便の介助	講義
	1)自然排尿および自然排便の基礎知識	
	(1)排泄の意義　(2)排泄危難の機能と排泄のメカニズム	
9	(3)アセスメント	講義
	2)自然排尿および自然排便の介助の実際	
10	(1)トイレにおける排泄介助	講義
11・12	(2)床上排泄援助	講義演習
13・14	(3)オムツによる排泄援助	講義・演習
15	修了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる vol. 2 臨床看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:栄養・生化学、消化形態機能学、生活援助論・技術Ⅳ
備考	

平成31年度　授業概要

授業科目名	生活援助論・技術Ⅲ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次　1学期
科目目標	1. 人間にとっての生活行動(衣生活・清潔)の重要性を理解できる。 2. 生活援助(衣生活・清潔)が必要な対象を理解し、状況に応じた援助方法を理解できる。 3. 生活援助技術(衣生活・清潔)を習得できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 清潔・衣生活の意義と目的 1)清潔の援助の基礎知識　2)病床での衣生活の援助の基礎知識	講義
2	2. 整容・口腔ケア	講義・演習
3	3. 病衣の選択・寝衣交換	講義
4	4. 臥床患者での和式寝衣交換の援助	演習
5	5. 入浴・シャワー浴 全身清拭	講義
6.7	6. 臥床患者の寝衣交換・全身清拭の援助	演習
8	7.手浴・足浴	講義
9	8.足浴の援助	演習
10	9.洗髪	講義
11.12	10.洗髪の援助	演習
13	11.陰部洗浄	講義
14	12.陰部洗浄の援助	演習
15	修了試験	筆記試験 技術試験

評価方法	筆記試験・技術試験(全身清拭)等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1　基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる vol. 2　臨床看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:運動形態機能学、基本援助論・技術Ⅰ、基本援助論・技術Ⅱ、 生活援助論・技術Ⅰ、生活援助論・技術Ⅱ
備考	

平成31年度　授業概要

授業科目名	生活援助論・技術Ⅳ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	2年次　1学期
科目目標	1. 経口摂取が困難で栄養管理が必要な対象に対する援助技術を理解できる。 2. 自然排泄が困難な対象に対する援助技術を理解できる。 3. 経口摂取が困難で栄養管理が必要な対象に対する援助技術を習得できる。 4. 自然排泄が困難な対象に対する援助技術を習得できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 非経口的栄養摂取の援助	講義
	1)経管栄養法	
	(1)経鼻経管栄養法　　(2)瘻管法	
	2)中心静脈栄養法	
2.3	3)栄養・食事を助ける援助の実際・・・経鼻経管栄養法	演習
4	2. 導尿	講義
	1)一時的導尿	
	2)持続的導尿	
5	3)導尿・・・一時的導尿	演習
6	3. 排便を促す援助	講義
	1)浣腸	
	2)摘便	
7	3)排便を促す援助・・・グリセリン浣腸	演習
8	修了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験等にて評価する。
必須図書、参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる vol. 2 臨床看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目：消化形態機能学,生活援助論・技術Ⅱ
備考	

平成31年度　授業概要

授業科目名	診療援助技術Ⅰ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次　2学期
科目目標	1. 診察・検査に関する診療の補助技術について理解できる。 2. 診察・検査に関する看護師の役割を理解できる。 い		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 診察・検査時の看護	講義
	1)検査の意義および看護師の役割	
2・3	2)検体検査時の看護	講義・演習
	(1)尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、骨髄液	
4・5	(2)静脈血採血時の援助	演習
6・7	3)生体検査時の看護	講義
	(1)X線検査、超音波検査、心電図検査、呼吸機能検査	
8	修了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1　基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる vol. 2　臨床看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:医療概論Ⅱ、基本援助論・技術Ⅱ
備考	

平成31年度　授業概要

授業科目名	診療援助技術Ⅱ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	2年次　2学期
科目目標	1. 与薬に関する診療の補助技術について理解できる。 2. 与薬に関する看護師の役割を理解できる。 3. 与薬に関する看護技術を習得できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 与薬の基礎知識	講義
	2. 経口与薬	
2	3. 吸入	講義
	4. 点眼	
	5. 点鼻	
	6. 経皮的与薬	
3	7. 直腸内与薬	講義・演習
4	8. 注射	
	1)注射の基礎知識	講義
5	注射の準備…注射針と注射筒の接続、薬液の準備	演習
6	2)注射の実施法	
	①皮下注射　②皮内注射	講義
7	注射の実施②…皮下注射	演習
8	③筋肉内注射　④静脈内注射(ワンショット)	講義
9	注射の実施①…筋肉内注射	演習
10	④静脈内注射(点滴静脈内注射)	講義
11・12	注射の実施②…点滴静脈内注射	演習
13	中心静脈カテーテル留置の介助	講義
14	9. 輸血管理	講義
15	修了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験・技術試験(筋肉注射)等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 看護がみえる vol. 1　基礎看護技術　メディックメディア 看護がみえる vol. 2　臨床看護技術　メディックメディア
履修上の注意	・関連科目:薬理学、基本援助論・技術Ⅱ
備考	

平成31年度 授業概要

授業科目名	健康段階の看護Ⅰ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 健康状態の経過に基づく看護について理解できる。 2. 治療・処置を受ける対象者への看護について理解できる。		

回数	授業内容	教育方法
1	1. 経過別看護の考え方	講義
2・3	2. 急性期における看護	講義
	1)急性期の特徴 2) 急性期の患者ニーズ	
	3) 急性期における患者への看護援助	
4・5	3. 慢性期における看護	講義
	1)慢性期の特徴 2)慢性期の患者ニーズ	
	3)慢性期における患者への看護援助	
6・7	4. リハビリテーション期における看護	講義
	1)リハビリテーション期の特徴 2)リハビリテーション期の患者ニーズ	
	3)リハビリテーション期にある患者への看護援助	
8・9	5. 終末期における看護	講義
	1)終末期の特徴 2)終末期の患者ニーズ	
	3)終末期にある患者への看護援助	
	6. 治療・処置を受けている患者の看護	
10	1)化学療法を受ける患者の看護	講義
11	2)放射線療法を受ける患者の看護	講義
12・13	3)手術療法を受ける患者の看護	講義
14	4)集中治療を受ける対象の看護	講義
15	修了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験等にて評価する。
必須図書、参考図書等	【必】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院
履修上の注意	
備考	

平成31年度 授業概要

授業科目名	健康段階の看護Ⅱ	区分	専門分野Ⅰ
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	専任教員 (実務経験5年以上、教員に必要な研修受講者)	時期	2年次 1学期
科目目標	1. 看護過程の一連の展開技術が習得できる。 2.. 有用な理論を取り入れ看護を考えることができる。		

回数	授業内容	教育方法
	事例 ＜脳梗塞の患者の看護＞	
1	アセスメント	講義・演習
2	アセスメント	講義・演習
3	アセスメント 全体像・望ましい姿	講義・演習
4	看護問題の明確化(看護診断)	講義・演習
5	看護計画立案	講義・演習
6	実施	演習(実習室)
7	評価	講義・演習
8	まとめ	講義・演習

評価方法	事例課題等にて評価する。
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院または電子辞書(看護診断が入っているもの)
履修上の注意	・全員共通の1事例を題材とし、各自で看護過程を展開します。 ・毎回、本時の講義内容に対応する課題を提示します。 ・全ての課題は、定められた期日までに必ず提出をしてください。 ・定められた期日までに提出された課題を評価の対象とします。 ・解剖生理学、病態学、看護過程の展開等、これまでの知識を活かしていく必要があります。 ・課題は十分に時間をかけ、最大限の努力をしたうえで提出をしてください。
備考	